

令和4年度 兵庫県立伊丹高等学校 学校評価

1 スクールミッション

「誠実 克己 忠恕」の理念のもと、理解力、思考力、協働力、探究力を備え、世界や地域の課題を自分の課題として仲間と一緒に解決に向けて活動するグローバル・リーダーとして、これからの社会を切り拓くことのできる人材を育成する。

2 スクールポリシー

育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）  
 ① 世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動する人物、グローバル・リーダー（GL）を育成します。  
 ② 座学のみならず、地域等と連携した多彩な活動等に取り組み、将来予測が困難な時代に未来を切り拓くGLに必要な3つの心と4つの力を身に付けます。  
 ③ 3つの心……誠実・克己・忠恕  
 ④ 4つの力……理解力・思考力・協働力・探究力

5 学校関係者評価（総合）

○新型コロナウイルス感染症の影響は令和4年も依然やむことなく、3年連続となり、この間生徒の学校生活及び課外活動に多大な困難を及ぼしたと思います。高校生活3年間で全てコロナ禍で終わる学年もあるかと存じます。その様な中、御校の教職員の皆様は創意工夫と弛まぬ努力によりなんとか生徒たちの教育・学校生活をより豊かなものにしていただけた事は大変に評価される点である。グローバル・リーダーの育成にあたり、3つの心、4つの力を身に付けるとのスクールポリシーは大切なことだと理解する。  
 ○各中学校を訪問して、丁寧に学校の取り組み等を説明するという地道な活動が、出願者数の増加という形で成果として現れている。  
 ○オープンハイスクールで、生徒による司会、説明、発表等の運営をするというのが、学校の雰囲気等が中学生によく伝わり、とても良い取り組みである。今後もより充実した活動となるよう期待している。  
 ○今後の活動において取り組むべき点は、アンケートにおける不満点の解消に重点をおくか、満足度の更なる向上におくか、御校のこれからの取り組み期待致す。

3 自己評価

項目ごとに5,4,2,1点の4段階で評価。達成状況は、A…平均4.0以上 B…平均3.0以上4.0未満 C…平均3.0未満。

基本方針	基本的方向	施策	取組	達成状況			取組状況・改善方針
				取組	昨年比	総合	
「生きる力」を育む教育の推進	「確かな学力」の育成	学力向上の推進	1.指導計画の作成及び観点別評価と指導の一体化	B(3.9)	↑0.8	A	○新学習指導要領の改訂に伴い観点別評価とBYODの導入が新入生から始まった。検証を行い随時見直しを図った。 ○習熟度別少人数授業や補習は生徒のニーズに合致した実施ができています。生徒保護者アンケートでも満足な結果がでている。 ○海外探究活動や国際交流は、今年度も実施できなかったがオンライン交流の参加者数も増え新しい学校（国）とも交流があった。来年度は本校とこれまで交流してきた学校が来校予定である。 ○GLIS生徒自身が、その活動を通じて次の学年に継承することを目標に取り組んだ。生徒たちは自主的に企画を計画し、実施することができた。 ○コロナ禍の中でも、県伊丹祭で食品模擬店を再開することができた。生徒の自主活動は、県高の歴史と伝統を支えている。 ○120周年記念式典や事業を生徒主体に行うため、進行を任せると成功させることができた。 ○今年度は地域探究の課題発表を公開で行った。 ○体育祭では感染対策を行った上で、コロナ前の種目に戻す努力をした。 ○学校付近の自転車マナーは良い。 ○熱中症対策として教室に扇風機を増やしたが、エアコン改修までは不十分な状況が続く。そのため、未然防止段階での取組に重点をおきたい。 ○今年度は不登校生徒や保護者への関わり方を学ぶ職員研修を行った。 ○職員との打合せを校務支援システムを利用し共有できるようにした。 ○定時退勤日やノーマルデーは教職員の意識を変えなければ徹底は難しい現状である。欠席システムを導入し勤務時間の適正を改善することができた。 ○ICT機器の利用において、多種多様な管理が必要になっている。ICT推進委員会が機能的に動くことが今後も目標である。 ○探究活動の取組みて企業や自治体とは継続して実践することができた。 ○オープンハイスクールは申込多数により、最終回は録画方式で行い申込数を無制限とした。生徒の校舎案内も好評。 ○本校入学生出身中学校へ学校案内を配付。HPやブログを通じて本校の活動を発信した。 ○同窓会、PTAの学校活動への参加と支援は本校の大きな力となっている。
			2.習熟度別少人数授業（英・数）の実施	B(3.8)	▽-0.2		
			3.新学習指導要領を踏まえた探究活動の授業	A(4.2)	↑0.7		
			4.補習（平常・長期休業中）の実施	A(4.1)	↑0.4		
	国際理解を深める教育	5.英語4技能試験の活用	B(3.9)	±0	B		
			6.海外探究活動・海外語学研修の実施	C(2.9)		▽-0.1	
			7.国際交流（姉妹校交流、オンライン活用）	A(4)		▽-0.1	
	理数教育の充実	8.大学模擬授業、大学フォーラムへの参加	B(3.9)	±0	A		
			9.GLISリーダーシップワークの実施	A(4.2)		▽-0.3	
			10.専門機関講師による科学探究・実験講座	A(4.2)		↑0.2	
	「豊かな心」の育成	人間力の育成	11.校訓に基づいた校風の醸成	B(3.9)	▽-0.1	A	
			12.生徒会活動の活性化	A(4.2)	▽-0.2		
			13.生徒主体の県伊丹祭（文化祭）	A(4.3)	▽-0.2		
			14.地域課題探究の実施	A(4)	↑0.2		
「健やかな体」の育成	心・技・体の醸成	15.生徒主体の体育祭・球技大会	A(4.4)	↑0.1	B		
		16.活動方針に基づいた部活動の実施	A(4)	▽-0.2			
	健康教育・安全教育	17.登下校等の安全確保	B(3.5)	▽-0.5			
		18.WBGTによる熱中症対策	B(3.8)	▽-0.2			
子どもたちの学びを支える環境の充実	教職員の資質・能力の向上	19.研究授業週間等、授業改善の取組	B(3.9)	±0	B		
		20.外部研修への参加・校内研修の実施	B(3.8)	↑0.1			
		21.1人一台端末利用に向けた活用研究	B(3.9)	↑0.3			
	学校の組織力の強化	情報共有	22.校務支援システムの運用	A(4.4)	▽-0.1	B	
			23.定時退勤日、ノーマルデーの徹底	C(2.6)	↑0.3		
			24.情報セキュリティ徹底、情報資産管理	B(3.9)	↑0.4		
	家庭と地域による学校と連携した教育の推進	いじめ・不登校への対応	25.校内委員会等の活性化	B(3.8)	↑0.2	A	
			26.いじめアンケートによる早期発見・対応	A(4.3)	±0		
		外部機関との連携	27.地元企業・自治体・大学等との連携	B(3.8)	↑0.2		
			28.PTAと連携した一斉メール配信	A(4.4)	↑0.2		
		地域への情報発信	29.広報誌「緑樹」の発行	A(4.4)	↑0.1		
			30.HP・ブログ等の発信	B(3.5)	↑0.1		
			31.生徒主体のオープンハイスクール	A(4.2)	▽-0.1		
32.同窓会・PTAとの参画・協働	A(4.1)		±0				
33.学校評議員会、学校評価の改革	A(4.1)	↑0.1					

6 自己評価への関係者評価

評価項目ごとの評価
○国際理解を深める教育についてはコロナ禍の中、困難であった事、理解できます。総合評価について学力向上の推進に対してB評価ではないでしょうか。 ○学力向上の取り組みが成果を上げているのは好ましい。これがスクールミッション達成の土台となる。生徒保護者アンケート結果の差を検証し、総合的な「底上げ」も必要だと感じた。 ○コロナ禍で海外へ行くこともままならぬ中、良く努力された。来年度、海外交流の相手校が来日し、直接顔を合わせることが出来るのは、生徒のモチベーションを高め、より英語学習に取り組むことと期待できる。
○生徒・保護者ともにアンケートで80%を超える満足度であり、コロナ禍の中で学校側が何とか対応しようとした姿勢が見えます。 ○各行事が生徒主体で活動されているのは素晴らしいと感じた。母校への広報なども継続してほしい。
○地球温暖化の影響もあり夏場の猛烈な暑さは今後も続く事は予測されます。早急なエアコン改修等の対策を望みます。○大人への入り口にさしかかる多感な時期。自分を大切に、命と体を守る姿勢もしっかりとつけて欲しい。
○コロナ禍で難しい状況が長く続いたが、中学校と高校と大学の連携ができれば理想である。 ○顧問等を外部委託にするとか、幾百回の同窓会をお願いしてみるとか、先生の負担を減らすことが最重要かと思えます。それぞれの業務内容を洗い出し、業務内容に順位付けを行う。
○情報セキュリティや情報モラルについての継続的な対応が必要であり、職員及び生徒の共通理解等が課題と思われる。 ○防災キャンプは自衛隊協力の炊き出し等、良いプログラムでした。
○学校は保護者や地域の理解、支援に支えられており、大切な存在である。同窓会との密接な関係創りに努めてください。本当に幾百の素晴らしい人財があり、他校にはない卒業生の多さは、県伊丹の強みだと思います。 ○配信・発信などは、情報の一方通行になりやすく、基本的方向に書かれた「連携」は難しいのかと感じました。

4 兵庫県教職員資質向上指標による自己点検

5段階で評価したのち、3段階（できている・できていない・わからない）の人数割合を表示。

分野	資産	教員としての資質の向上に関する指標
学習指導	授業実践力・授業改善力	1.学校教育目標や児童生徒の実態を踏まえた年間指導計画を作成し、計画的に授業を進めることができる。
		2.学習指導要領の目標や内容に基づき、児童生徒の実態に応じた授業を設計することができる。
		3.主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組むことができる。
		4.評価規準等に基づき、児童生徒の学習状況を把握・評価し、指導方法の改善につなげることができる。
		5.わかる授業づくりに向け、ICT機器等を活用することができる。
学級・HR経営	集団を高める力	6.いじめ、不登校などの教育課題の緊急性や重要性を理解し、その予防・解決に取り組むことができる。
		7.学年・学級目標の実現に向け、学級経営案やホームルーム計画の立案・実行・改善ができ、児童生徒が安心して過ごせる学級づくりに取り組むことができる。
	一人一人の能力を高める力	8.児童生徒との適切な距離を保ちながら、生活背景や内面の理解に努め、カウンセリングマインドとストレスマネジメントに基づく指導を行うことができる。
チーム制で組織を担う	協働性・同僚性	9.保護者や関係機関と連携を図りながら、個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成できる。
		10.「教職員の勤務時間適正化推進プラン」をもとに、ワーク・ライフ・バランスや勤務時間の適正化を意識しながら、計画的に仕事を進めることができる。
	組織的対応力	11.児童生徒への指導等に関して、同僚・先輩や管理職等に相談し、指導に生かすことができる。
		12.校内における自分の役割を認識し、校務分掌を的確かつ効率的に遂行できる。
資質を高める	自己管理能力・変革力	13.校内の情報を適切に管理し、取り扱うことができる。
		14.学校安全のための危機管理を理解し、事件や事故、トラブルに適切に対応することができる。
		15.日頃から、ストレスマネジメントに努めるとともに、教員として自覚ある行動をとることができる。
		16.適切な言動を心がけ、児童生徒や保護者等からの信頼確保に努めている。
		17.日々の実践等を振り返り、自らの教育活動の工夫・改善に努めている。

